



Beyond KUSS , 2022 !!



業者テスト

すでに連絡しているように、5月末に「大学入学共通テスト模試」を実施します。5か月後、10月末にも「大学入学共通テスト模試」の実施を予定しています。4年と5年では「プライムステージ」を実施しています。これらのテストに違いはあるでしょうか。

5年までに実施した業者テストは、実施段階での受験学力の到達度、基礎・基本の定着度を確認するために実施しています。プライムステージは業者テストとしては、難問の比率が高く、素点で40%突破が目標でした。目標を突破できた教科はありましたか。標準レベルまでの問題のうち約80%得点すれば、目標突破が可能です。40%程度得点できている人は、基礎・基本が定着していると評価できます。

6年で実施する業者テストは、実施段階での受験学力の到達度、基礎・基本の定着度を確認するとともに、共通テスト本番を意識する必要があります。難問の比率が下がるので、素点で70%突破が目標です。業者テストでも定期考査でも、易しい問題、標準的な問題、難しい問題で構成されます。共通テストでは標準レベルまでの出題が80%程度です。基礎・基本が十分に定着し、普段の実力を十分に発揮することができれば、80%突破が可能です。共通テスト本番を意識して、受験しましょう。共通テストでは、鉛筆でマークする必要があります。定規やコンパスを使用することはできません。もちろん、検査当日に向けて体調を整える、計画的に学習を進めるということも必要です。

本校が実施する業者テストは、大学の教室を使用することが多いです。神戸大学でも学部や教室により、机の形態や配置が異なります。どのような環境で受験するかわかりません。日頃の教室・校舎とは異なる環境で受験することに慣れる練習も必要です。

受験本番での合否は、様々な要因が複合的に関係します。基礎・基本が定着し、受験学力が十分であることは大切な要因です。それに加えて、検査当日を中心に遭遇する様々な要因に臨機応変に対応できる力も大切です。

「K値」

これから7回生の受験状況を紹介することがあります。その際に「K値」という数値を用いることがあります。この「K値」について事前に紹介しておきます。7回生はみなさんと同じパターンで6年時に業者テストを受験しています。まず、各教科・科目2回の平均値を算出、それをもとに900点満点の値を算出、その得点率を「K値」とよびます。2回実施する業者テストで5教科全科目を受験している場合、「K値」が算出されます。

「K値」と共通テスト自己採点集計結果の関係をグラフで示しています。「K値」が60を超えれば、共通テストで630点を、「K値」が70を超えれば、720点を突破できる可能性が高いです。ただし、「K値」が77でも630点未満、「K値」が65でも720点程度得点しています。前者は日頃の実力を十分に発揮できなかった、後者は日頃の実力を100%発揮できたケースです。複数回の業者テストと共通テストの関係でも比例関係にありません。たった1回の業者テストで「第1志望」を変更するようなことは、やめましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2022 !』の内容について、SNS等webへのアップや無断使用しないようお願いします。